

令和元年度 第1回 青森市スポーツ推進審議会 会議概要

開催日時 令和元年10月24日(木) 18:30~19:15

開催場所 青森市役所本庁舎 3階 福利厚生室

出席委員 増田 あけみ会長、柿崎 泰明委員、神 明彦委員、高杉 勝彦委員、高橋 光夫委員、竹内 慎委員、塚田 晴彦委員、中田 吉光委員、長内 良丸委員、久慈 佐知子委員、斎藤 広樹委員 《計11名》

欠席委員 なし

事務局 経済部次長 横内 信満、地域スポーツ課長 遠嶋 祥剛
地域スポーツ課主幹 淋代 優樹、地域スポーツ課主幹 寺田 幸生
浪岡事務所地域づくり振興課主幹 今村 剛志、
地域スポーツ課主査 葛西 光明、地域スポーツ課主査 榊 征也
地域スポーツ課主事 佐々木 瑞葉、地域スポーツ課主事 久保 大輔
浪岡事務所地域づくり振興課主事 高坂 泰行 《計10名》

- 会議次第**
- 1 開会
 - 2 審議
(案件) スポーツ団体に対する補助金について
・ 一般財団法人青森市スポーツ協会
 - 3 報告
(案件) スポーツコミッション青森について
・ 令和元年度スポーツコミッション青森推進事業
 - 4 閉会

審議（案件）スポーツ団体に対する補助金について

事務局から、資料1のとおり、スポーツ団体補助金について説明があった。

意見、質疑応答

○委員

資料中、1 補助内容の(2)について、青函対抗体育大会開催・選手派遣事業の概要を教えてください。

○事務局

大会における競技について、平成29年度の実績で14競技、28年度実績では15競技となっており、主に一般の方が参加している。

○委員

更なるスポーツ振興が図られるよう、事務局において委員のご意見を踏まえながら進めてほしい。

報告（案件）スポーツコミッション青森について

事務局から、資料2のとおり、スポーツコミッション青森について説明があった。

意見、質疑応答

○委員

陸奥湾周遊サイクルツーリズムについて、コース設定に当たり、例えば、道路が狭いだとか昇りがきついだとか、コース状況を把握するための下見を行っているのか。

○事務局

現在、受入環境について、業者等とともに確認作業を進めている。今後も、引き続き国・県・各市町村とも調整しながら進めてまいる。

○委員

フルマラソンの実施について、ホームページ等の周知は、全国的なものを想定しているのか。

○事務局

フルマラソンについては、専門のインターネットのサイトや雑誌などを最大限に活用し、全国のランナーの皆さんへ周知したい。

関連して、サイクルツーリズムについても、同様に周知を図るとともに、受入環境の整備をしっかりと進めていきたい。

○委員

フルマラソンのコースの設定状況はどうなっているのか。

○事務局

概ね決定してきており、道路に関する占用許可などの手続きを経て最終的に決定予定である。桜の時期の4月の開催となるが、コースについては、野木和公園をスタートし、後潟

まで北上する。後潟で折り返し、ベイブリッジを渡り合浦公園を通過し、野内へ向かう。野内で折り返し、最終ゴールとして青い海公園、アスパムを予定している。

○委員

参加選手のモチベーションにもつながるため、他のマラソン大会で上位の選手やタイムが早い選手は、他の大きな大会にも優先的に参加可能となること、有名選手を招待するなどの取組をよく聞くが、市ではどのように考えているか。

○事務局

現在、設定中であるが、委員のご意見のとおり、大会の宣伝効果にもなるのとこのことで他の大会で取り組んでいる事例もあることから、今後詳細を詰めていきたい。

○委員

実施に当たって、ドクターの配置や AED の設置など、各地点などに配置が必要であるので、しっかりと大会に間に合うように準備してほしい。

開催時期については、これまで、4月の開催はどうかと提案をしてきたことから、これまでの7月からフルマラソンとして4月に変更したことはよいことだと思う。理由とすれば、暑い時期は気温も高く、選手にとって過酷であるため、引き続き開催準備を進めてほしい。

○事務局

市では、これまでハーフマラソンで開催し、医師会様など、様々な関係機関の皆様からご協力いただきながら開催してきたという経緯がある。フルマラソンとなり、大会規模も大きくなるが、引き続き、関係機関の皆様と協力体制を構築し事故のない万全な体制で進めていきたい。

○委員

陸奥湾周遊のサイクルツーリズムについて、陸奥湾広域連携協議会と連携したコース設定について、どのように考えているのか。

○事務局

サイクリングコースは、今年度検討に着手したところであり、現在、コースの調査を進めているところである。

予算としては、本年度は検討段階につき計上していないが、来年度以降、当初予算に盛り込まれるものと考えている。

○委員

資料3のスポーツコミッション青森について、約2,500万円の予算が記載されているが、内訳について教えてほしい。また、国からの交付金等はあるのか。

○事務局

スポーツ大会・合宿誘致の支援については約170万円、オリンピック・パラリンピックの事前合宿誘致については約1,800万円、地元のスポーツチームへの支援については、地元のプロスポーツクラブの交流事業が約30万円、スポーツ医科学講座が約110万円、スポーツ指導者の育成支援が約30万円、その他事務経費等という内訳となっている。

なお、財源については、基本的に市費となっている。

○委員

スポーツコミッション青森の取組の中の合宿誘致について、明治大学の競走部の合宿があったが経緯を教えてほしい。また、他の団体でも、希望すれば合宿は可能か。加えて助成金額を教えてほしい。

○事務局

合宿誘致につきましては、スポーツコミッション青森のメンバーからのご紹介で実現したところである。委員の皆様もスポーツの合宿を希望している企業や大学などの団体をぜひご紹介いただきたい。なお、助成金額は、一人泊、2,000円となっている。

○委員

スポーツの合宿について、宿泊施設は新青森県総合運動公園の施設を活用しているのか。

○事務局

宿泊施設については、スポーツ施設ではなく市内のホテルなどの宿泊施設を利用している。

○委員

青森競輪場の競輪選手宿舎があるがレース以外は使用していないため、その宿舎も活用いただければと考えている。

○委員

オリンピック・パラリンピック事前合宿の誘致について、デフリンピックは対象となるのか。

○事務局

オリンピック・パラリンピックの合宿については、青森市とタジキスタン共和国において、青森市がホストタウンとなったことから合宿が実現できたところである。

先程申し上げたように、スポーツの合宿や大会等についても、引き続き誘致を進めたい。

○委員

地域のプロスポーツクラブ等の交流事業について、前回の審議会において、日本競輪選手会青森支部があり、一生懸命活動していることからご支援・ご利用をお願いしたところだが、どのような状況となっているのか。

○事務局

現在は、主に青森ワッツやラインメールとの交流事業となっているが、競輪の団体もあるというご意見をいただいたことから、今後確認するが、まずは、一つひとつ、現状の取組を進めていきたいと考えている。

閉 会